

## 受賞者の活動概要および受賞理由

## ●花のまちづくり大賞

	受賞者名	活動概要および受賞理由
農林水産大臣賞	<p>新地町立 駒ヶ嶺小学校</p> <p>(福島県新地町)</p> <p>団体部門</p>	<p><b>“復興とその先を見据えた花飾り ”</b></p> <p>1976 (昭和 51) 年に緑の少年団が結成されてから緑化活動に取り組むようになり、40 年間続けています。2001 (平成 13) 年に校舎が新築してからは緑の少年団の活動を受け継ぎ、校内の花壇や通学路沿いで花壇づくりをしています。</p> <p>東日本大震災の被災直後から屋外活動が規制され、緑の少年団の活動も思うようにできずにはいましたが、児童の明るい心を取り戻すため、保護者とともに放射線を正しく理解しながら自分たちができる花いっぱい環境づくりに取り組んでいます。現在は地域の人と一緒に正門前の道路沿いの花壇づくりを中心に活動しながら、食育にもつながる稲作づくりなど、地域との結び付きをさらに深めることや美しい花を育て、その花々によって地域も学校も美しくなり、心も豊かに育むことを目指しています。</p> <p>花のまちづくりの普及や地域のコミュニティづくり、世代を越えた交流などをさらに実践していこうとする取り組みが大変高く評価されました。</p>
	<p>山崎 久夫</p> <p>(富山県朝日町)</p> <p>個人部門</p>	<p><b>“ふるさとの花咲かおじさんが創出した「春の四重奏」”</b></p> <p>チューリップの球根と米作の農家で、2003 (平成 15) 年頃より約 4ha の農地で活動を始めました。残雪の朝日連峰を背景に舟川堤防沿いに 1.2km の桜並木が咲き、同時に 1ha のチューリップ畑と 3ha の菜の花畑を加えた春の花の風景づくりに尽力しています。この風景は「春の四重奏」と称して、県内外や海外からも合わせて 3 万人以上の見学者が訪れます。春は訪れる見学者のために、駐車場の整備や送迎シャトルバスの運行、冬は桜並木をイルミネーションするなど、町の協力と支援体制も整っています。チューリップの開花期と色合いを考えた品種選択や春以外の集客に向けた JA 青年部の協力による田んぼアートづくり、昨年からは秋にも花が楽しめるようにと有志 60 名とともに彼岸花の球根を植え、3 年間で 700m に延長するなど活動は面積や場所だけではなく、組織的にも発展・向上を続けています。</p> <p>雄大な景観形成による交流人口の拡大や観光振興など、この活動は朝日町や富山県の地域活性化にも大きく貢献しており、大変高く評価されました。</p>
国土交通大臣賞	<p>藤枝市</p> <p>(静岡県藤枝市)</p> <p>市町村部門</p>	<p><b>“いつも、どこでも、どんなときも、花でつながる・ふじえだ花回廊”</b></p> <p>藤枝市は静岡県のほぼ中央に位置し、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、市内には蓮花寺池公園や瀬戸川左岸の 2 km におよぶ桜堤など、季節ごとに花が楽しめる名所があります。</p> <p>本市の花のまちづくりの始まりは、60 年前の国体開催を契機に設立した藤枝市花の会の活動にまで遡ります。1973 (昭和 48) 年にはフジを市の花に制定し、花いっぱい運動と藤の里づくりを進めてきました。これらの活動を礎に、2015 (平成 27) 年に市の重点施策となる花回廊基本構想をつくり、「いつも、どこでも、どんなときも、花でつながる」をコンセプトにした「ふじえだ花回廊」の活動が加わりました。これにより様々な花回廊事業が多目的、多面的に推進されています。事業展開にあたっては市民団体からなるふじえだ花回廊推進協議会が組織され、市民総ぐるみの推進体制が整い、「まち美化里親制度」の 52 団体の活動とも連携して、花のまちづくりが拡大・発展しています。</p> <p>安心・安全な市民生活や人口増加にも寄与するなど、花の社会性が存分に発揮されており、市民ぐるみの花のまちづくりは大変高く評価されました。</p>
	<p>すみよいカルチャー タウンをつくる会 コミュニティガーデン ふるる</p> <p>(兵庫県三田市)</p> <p>団体部門</p>	<p><b>“地域住民の憩いの場として愛されるコミュニティガーデン”</b></p> <p>ニュータウンの一角にある 3,200 m<sup>2</sup>の遊休地を兵庫県から借り受け、2005 (平成 17) 年からコミュニティガーデンの活動を始めました。活動当初は何もないところからスタートしましたが、今ではコミュニティガーデンが地域に根付き、行政等の協力も得られています。</p> <p>活動は親子での共同作業を基本とし、地域のお年寄りや子育て世代の人たちとも一緒になって、花壇づくりや花木の管理がされています。ガーデン内の小物やオブジェ、巣箱なども会員の手作りで、花と相まって温かみのある空間を醸し出しています。会では住み良いまちを目指して活動し、子どもたちにはふるさととしての愛着心が生まれています。2006 (平成 18) 年から「三田花みどりネットワーク」の一員となり、オープンガーデンとしても開放して見学者にも楽しまれています。</p> <p>何もないところから始めた遊休地のガーデニングが、月日を経るにつれ心地よい空間をつくりだしました。いつのまにか人が集い、子どもたちの笑顔があふれる地域の憩いの場となり、住民の思いが詰まったコミュニティガーデンに変貌させたことは、大変高く評価されました。</p>

全ての受賞者の画像は日本花の会のホームページより (<http://www.hananokai.or.jp>) ダウンロードできます。(9月29日午前11時より)

花のまちづくり大賞・農林水産大臣賞	<b>団体部門</b> 新地町立駒ヶ嶺小学校(福島県相馬郡新地町)		
	<b>個人部門</b> 山崎 久夫 (富山県下新川郡朝日町)		
	<b>市町村部門</b> 藤枝市 (静岡県藤枝市)		
	<b>団体部門</b> すみよいカルチャータウンをつくる会・コミュニティガーデンふるる(兵庫県三田市)		
花のまちづくり大賞・国土交通大臣賞			

## ●花のまちづくり優秀賞

	受賞者名	活動概要および受賞理由
推進協議会長賞	<p>浦戸諸島 「海と花の物語」 (宮城県塩竈市) 団体部門</p>	<p>過疎と高齢化が進む浦戸諸島（日本三景の松島に属する4島）を花で繋ぎたいという想いで活動が始まりました。その活動は東日本大震災で寸断されましたが、2011（平成23）年秋には再開し、スイセンやクロッカスなどの秋植え球根を主体とする花のまちづくりに取り組んでいます。花仲間への呼掛けや積極的な情報発信を通じて、島内のみならず県外から多数の支援者が作業に訪れます。また、昼食会や島巡りウォークなどの交流を通じて島の魅力が発掘され、家族連れで再訪する人も多く、島に新たな風が吹き込まれています。</p> <p>ビタミンカラーが上手く取り入れられた海と調和する美しい風景が創出され、人々の心を和ませています。世代や地域を越えて誰でも参加しやすい仕組みにより、花の縁で人と人が繋がり、地域の魅力が発掘され、地域の振興や活性化の成功事例として高く評価されました。</p>
	<p>NPO 法人 大田・花と みどりのまちづくり (東京都大田区) 団体部門</p>	<p>（財）大田区公園緑地振興公社の解散を受け、当時の登録ボランティアが2002（平成14）年に立ち上げたNPO法人で、区から管理委託を請けた花壇を中心に花のまちづくりに取り組んでいます。</p> <p>きめ細やかな手入れによって見事な花の景観が維持され、区や住民からの評価が上がるにつれて活動場所が広がっており、花壇以外にも区民農園や圃場、関連施設の管理運営、児童館や保育園、地域イベントでの普及啓発活動にも取り組んでいます。役割分担や月1回の会報、運営方法に多くの工夫が見られ、誰でもが関わって、参加者に負担が少ないボランティア活動の仕組みが完成しています。</p> <p>活動は自立したボランティア組織として一つの完成形とも言え、市街地において景観の向上ばかりでなく、コミュニティの再生、高齢者の健康づくりに貢献しているなど、都市地域における先駆的な成功事例として高く評価されました。</p>
	<p>長岡市立山本中学校 (新潟県長岡市) 団体部門</p>	<p>1987（昭和62）年の創立40周年に、記念花壇が創設されたことを機に花壇づくりが活発化しました。その後、中越大震災（2004年）をきっかけに、中学生が主体となった先導的な緑化運動となり、学校の積極的な指導・協力のもとに活動が継続しています。</p> <p>生徒54人、職員16人の小規模校で「花と対話する山中生」を合言葉に、花を介して地域の活性化に貢献することを目標に掲げ、校内や通学路および学区内など、約600㎡で花壇づくりをしています。活動を通じて他を思いやる心や協力、責任感の育成など、人づくりを図りながら地域のコミュニティづくりも念頭におくことで、「花のまち やまもと」のイメージアップにつなげています。</p> <p>地域での花壇活動や交流を通じて、地元との絆を深めながら活動範囲を広げ、地域とともに花と関わる活動が高く評価されました。</p>
	<p>社会福祉法人 浄英会 長生保育園 (新潟県長岡市) 団体部門</p>	<p>日々忙しい保護者と一日の大半を園内で過ごす園児たちの気持ちが、花により安らぎ、和むようにと1989（平成元）年から花づくりをしています。</p> <p>園舎正面は園児とともに地域の方にも親しまれるように、季節感とスケール感のある花で飾り、園周辺では四季折々に花が途切れずに咲くように、花木や多年草なども取り入れています。人の気持ちを和らげ、地域、子どもたち、保護者、職員が花を介した会話などにより、園の活動に理解が深まるようにしています。また、園児は種子から花を育てることにより、花が咲く不思議を経験し、五感を育む活動となるよう心掛けています。</p> <p>春には園庭を公開し、保護者だけでなく地域住民との交流を積極的に図るとともに花育の理念と行動が確立され、理念に基づいた取り組みとして、花の加工装飾や食育なども取り入れた多面的な活動は高く評価されました。</p>



## ●花のまちづくり優秀賞

	受賞者名	活動概要および受賞理由
推進協議会長賞	<p>越前市南地区 自治振興会 (福井県越前市)  団体部門</p>	<p>総距離にして約 5km の街路樹の植栽帯を中心に学校や公園、公共施設などでシランの植栽や苗の配布、花壇づくりに 2010 (平成 22) 年から取り組んでいます。</p> <p>それまでは空地に雑草が繁茂しごみの不法投棄も目立ったため、環境美化を目的に花苗などの配布活動を行っていましたが、シランを株分けで増やしていく緑化活動に転向して、地区自治振興会が企画立案を担いながら活動をするようになりました。2012 (平成 24) 年からは毎年紫式部公園での「紫蘭まつり」を企画・開催して、活動の定着を図るとともに他のイベントにも参加して相互交流することでシランが地区全域に拡がりました。</p> <p>容易に栽培できる日本古来種のシランと地元ゆかりの紫式部をつなげ、地区の特色や活動の継続、拡大を目指した先進的な取り組みの事例として高く評価されました。</p>
	<p>神原町花の会 (花美原会) (静岡県浜松市)  団体部門</p>	<p>町の誕生 50 周年を機に住民が「神原町まちづくり構想」をつくりました。この構想の中で「花と緑の町づくり」が謳われ、2007 (平成 19) 年に会をつくり活動が始まりました。</p> <p>当初は町会の活動と連動したこともあり、休耕地を利用した大面積の花畑や花壇を作りましたが、5 年目からは場所と体制を集約して、現在は 1,500 m<sup>2</sup> の「花と緑いっぱい区域」で、40 人の会員が花畑や花壇づくりをしています。</p> <p>四季絶えることのない花が町の一角を彩り、地域との一体化を常に意識した活動は、会の目的である「ボランティア活動により花と緑いっぱいの笑顔あふれるまちづくりを目指すとともに、協同活動を通じて町民相互の親睦と融和を図る」を実現させており、今では会の活動がまちづくりの中核と推進役を果たしています。自発的なこの活動は花のまちづくりの原点ともいえ、市民活動の手本ともいえる素晴らしい活動として高く評価されました。</p>
	<p>草津市ガーデニング サークル “グラッシー” (滋賀県草津市)  団体部門</p>	<p>「ガーデンシテイクさつ」を目指す草津市が、市民参加型のまちづくり事業の説明会や講座、研修旅行を開催し、これに参加、賛同した市民が、ガーデニングによるまちづくりを広げる団体として、2013 (平成 25) 年に会をつくりました。</p> <p>市内の要所につくった市民参加型のガーデンが主な活動場所、スポット景観として市のイメージを特長づけています。約 200 人のメンバーが「無理なく何時でも」をモットーにガーデニングを楽しみながら活動し、それ以外にもイベントや講座、情報提供等が盛り込まれているガーデニング通信を発行して、会員間の情報共有を図り円滑な運営がされています。また、地区の幼児や小中学生、さらには高齢者も加わり、花育や園芸福祉、園芸療法の分野まで、世代交流を含めた自由参加型の取り組みも始まっています。</p> <p>行政や活動している施設域と役割分担などの仕組みづくりに課題はありますが、メンバーの継続的な尽力がまちの景観づくりに寄与しており高く評価されました。</p>
	<p>相場真江 相場毅正 (群馬県太田市)  個人部門</p>	<p>2000 (平成 12) 年に自宅前にブティックを移転したのをきっかけに、お店以外に地域の方が憩える場所をつくりたいとの思いから、自宅前の広い敷地 (3,300 m<sup>2</sup>) に親子でバラ園をつくりました。その後、親戚や地域住民などの協力が得られ、今では 100 種類 300 本を超えるバラの他、バラと調和する花木や草花類が植えられ、地域の憩いの場として利用されています。園内には手作りの休憩施設が併設されていて、近くの高齢者施設の利用者も訪れ、季節の花を楽しんでいます。バラの時期には若い感性を活かした地域住民も楽しめるイベントが開催され、地域の活性化にもつながっています。</p> <p>築 150 年以上の日本家屋の母屋と和洋・歴史のある庭の調和が図られ、各種のイベントやバラ園を通じて地域住民との交流が盛んに行われ、地域おこしの活力剤となっていることが高く評価されました。</p>



## ●花のまちづくり奨励賞

	受賞者名	活動概要および受賞理由
審査委員会委員	<p>こがね 黄金自治会 (宮城県涌谷町) 団体部門</p>	<p>2013 (平成 25) 年から 4 年間、国道 346 号線沿い (2.5km) で花のまちづくりに取り組んでいます。東日本大震災後、助け合いの共同生活を背景に自治会が設立されることになり、その目的を实践する取り組みの一つとして花壇づくりが始まりました。自治会や子ども会、老人会、高校、事業所など、幅広い世代が連帯した延べ 593 人の活動です。「行政区の住民が連帯感を高め、共同活動を行うことにより、健全で良好な地域社会の維持及び形成に資すること」を目的に花壇づくりやラベンダーロードづくり、プランターの設置などを進めています。 花を通じて地域コミュニティが再生して世代間の交流が活発化し、歴史や豊かな自然環境を後世へ継承するとともに観光への寄与も目指した活動を展開している点が評価されました。</p>
	<p>十文字環境美化を 考える会 (秋田県横手市) 団体部門</p>	<p>交通の要衝として発展した十文字町ですが、住民の高齢化や人口減により空き家や休耕地が増加、同時にゴミや雑草が目立ち始めてきたことを危惧して、2008 (平成 20) 年に会をつくり、人通りの多い場所の空地を花壇にして町を明るくする活動を始めました。 道の駅が出来たことや国道沿いの河川改修などで遊休地が生じ、花壇づくりができるようになったことで、花壇は点から面へと広がりました。また、ふるさと教育の一環として、小学生とともに県道沿いに桜並木を植栽し、集落の人たちが育成・管理を行い、将来を見越した景観形成にも取り組んでいます。 会員以外の有志や団体、住民の協力を得ながら、活動場所を JR 駅前、老人ホーム、保育所など町内各所に広め、花のまちづくりと地域の活性化を目指した活動が評価されました。</p>
	<p>東海村立白方小学校 (茨城県東海村) 団体部門</p>	<p>全生徒 576 人、全職員 40 人の小学校で、学校内の花壇 1,000 m<sup>2</sup>の他、花苗の一部を高齢者施設や幼稚園などに提供しています。 校内に古墳群の一部が点在することから、古墳を保存しながらその周りに「いにしえガーデン」と称して花壇づくりをしています。1 万本の花苗は、種まきを栽培委員会を中心となって行い、定植や花壇づくりは全校生徒で取り組んでいます。また、花苗は体育祭などに参加した地域住民にも配られるなど、花を通じた地域との交流も行われています。 小学校では、花壇づくりは花の美しさや自然、歴史を慈しむ心を育てる情操教育の一環として位置づけられています。また、地域に学校の花壇を開放することで、世代間交流が図られるなどの成果が見られ、一連の活動が評価されました。</p>
	<p>習志野台団地自治会 花愛好会 (千葉県船橋市) 団体部門</p>	<p>「第 24 回全国都市緑化フェアふなばし」(2007 年) を開催した会場のアンデルセン公園までのアプローチで、花壇づくりに協力したのをきっかけに会をつくり 12 人で活動しています。UR 都市機構との共同花壇として船橋市の美しい街並みづくりの一環となるように取り組み続け、歩道に面した 5 個所で、居住者や道行く人々に和み、憩い、愛しむことを目標に花壇づくりをしています。団地内のケヤキ等の大量な落葉を利用して腐葉土をつくり、土づくりから力を入れているので、花壇の花はいきいきと咲いています。近年では住宅棟前の空き地にミニ花壇を作って楽しんでいる居住者が増え、活動の波及効果も見られます。 自治会との連携も重視して、団地の入居 50 周年花文字記念花壇づくりや鯉のぼりなどの活動支援を通し、居住者のコミュニティづくりにも寄与するなどの活動も評価されました。</p>
	<p>中丸子南緑道緑を 守る会 (神奈川県川崎市) 団体部門</p>	<p>二ヶ領用水を埋設した緑道 (2,500 m<sup>2</sup>) で、1979 (昭和 54) 年から 38 年間花壇づくりに取り組んでいます。小学校に隣接していることから、街並みが荒廃してきた状況を憂いた一人の人が花壇づくりを始めました。その賛同者が徐々に増え、行政とも良好な関係を築きながら 24 名の会員で活動を続けています。活動目標には、①地域住民への安らぎ・憩い・癒しの提供、②常時 10 種類の開花、③「自慢の花々 (勿忘草・藤、紫陽花、桜草)」の育成、④地域社会の交流の深化・体験学習の場の提供が掲げられ、四季折々の花が咲く公園として市民に利用される他、保育園や小学校の学習の場としても積極的に活用され始めています。 自立した取組みで負の遺産が地域の資産に生まれ変わり、地域コミュニティの再生や活性化にも寄与した市内のモデルとなっている点が評価されました。</p>

## ●花のまちづくり奨励賞

	受賞者名	活動概要および受賞理由
審査委員会賞	牧之原市花の会 (静岡県牧之原市) 団体部門	<p>市内各所で放置されていた植栽柵を除草し花を植えたことから活動が広がり、現在は31ヶ所(2,155㎡)で花壇づくりがされています。</p> <p>牧之原市花の会の母体は、旧相良町と旧榛原町の両町で活動していた二つの花の会が、2006(平成18)年の町村合併と同時に一つとなり、地域ごとで花壇づくりをし、市内を花や緑でいっぱいにして人と人が繋がる活動を展開しています。また、各地域で活動するグループのリーダーは、リーダー養成講座で学んだ方が多く、地域間の連携や情報交換もスムーズに行われています。</p> <p>町村合併を経て、二つの花の会をうまくまとめて市全体に花や緑で潤いのある景観づくりに寄与した活動が評価されました。</p>
	<small>しまもとちょう</small> 島本町緑と花 いっぱいの会 (大阪府島本町) 団体部門	<p>町内の役所周辺、島本駅前など花壇5ヶ所320㎡、コンクリートポット20基による花のまちづくりを1981(昭和56)年より36年間活動しています。</p> <p>町財政が厳しい時期に町長から「活気がある明るい町にするためには何をしたらよいか考えてほしい」という提案があり、自治連合会、建設業協会などが協議した結果、住民ボランティアによる市内の緑化活動が採択され取り組みが始まりました。「みんなで育てよう、緑と花の島本町」を合い言葉に、通りがかる人や駅を利用する人の心を和ませています。一般的な花壇と珍しい花や秋と春の七草などを咲かせるテーマ花壇などに分けて花づくりがされています。</p> <p>町有地を利用してフジバカマを植え、アサギマダラの観察会や勉強会を開くなど、花のまちづくりに関連させて生態系保全などを加えた取り組みも評価されました。</p>
	<small>ひがしこせ</small> 東古瀬こども園 (兵庫県加東市) 団体部門	<p>農村地域にある保育園で園児85人と職員20人が、園庭や園庭内外に180基のプランターで花飾りするなど、1980(昭和55)年から活動しています。</p> <p>活動のきっかけは「手をつなぐ花の会」という保育について学ぶ講習会に参加し、そこで土づくりや腐葉土作成、苗木の育成など、その時に学んだことを園に持ち帰り実践したことが始まりです。現在では園の方針として、豊かな自然環境をいかして四季折々に変化する草花や自然を通じて、豊かな感情や感性を育てる場として活用し、生命の大切さを学ぶ機会と情操教育の一環として実践できる場として位置付けしています。</p> <p>小規模でありながら園の周りにおける花や緑のうまく利用し、園児たちの五感を通じて感性を磨く情操教育の進め方などが評価されました。</p>
	島原市立第三中学校 (長崎県島原市) 団体部門	<p>市内の農村地域にある生徒数158人、教職員27人の中学校で、学校の敷地内で200㎡の花壇や花のコンテナのほか学校の周囲200mで花壇づくりを行っています。</p> <p>27年以上前に島原市内にある他の中学校が、長崎県が主催する花壇コンクールで最優秀賞を受賞したことに触発され、花に囲まれた学校を目指して活動が始まりました。以来、学校の花いっぱいできれいにするにより、生徒の情操を育むことを目的に花壇活動を続けています。</p> <p>全生徒や教職員、敬老会などが一体となり種から育てた花苗で花壇づくりを行い、花をキーワードに地域との交流が広がり、他の小中学校にも潤い豊かな環境のお手伝いをしている活動が評価されました。</p>
	<small>しやま</small> 市山 由美子 (富山県砺波市) 団体部門	<p>豪雪地帯ならではの屋敷林という景観に合わせた宅地一周1,000㎡に、椿・水仙・シヤクヤク・ダリアなど和花中心の周辺景観や環境に合う草花を選び、「自然風放任ザイゴガーデン」をつくりました。ローコストを心がけた愛・楽・遊がモットーの花壇づくりは、地域の花壇づくりの参考になっています。自宅の花飾り以外に、地域のグリーンキーパーに23年間登録しており、地区の花と緑事業や環境保全事業を手伝いながら、近年では地区会館前の江波女性グループとも連携し活動を広げています。</p> <p>地区内の高波花街道の花飾りで、主導的役割で関わっている環境保全活動のスイセンなどを植栽する取り組みに10年間貢献するなど、町への奉仕と住民同士の絆づくりに尽力し取り組んでいることが評価されました。</p>

## ●花のまちづくり奨励賞

	受賞者名	活動概要および受賞理由
審査委員会賞	<p>オープン化粧品株式会社 (大阪府吹田市) 企業部門</p>	<p>1953 (昭和 28) 年創業の化粧品や健康食品などの製造販売会社で、バラを女性の美の象徴として「社花」にしており、2013 (平成 25) 年に創業 60 周年を記念して本社敷地内に 320 品種 5,500 本のローズガーデンを開園しました。</p> <p>関西でもトップクラスのバラ園で、ここでしか見られない品種やオリジナル品種もあります。見頃となる 5 月の一週間をローズウィークとして一般公開し、期間中は地域の市民団体などと協力、連携してイベントやコンサートなどを開催しています。来場者は年々増加しており、今年は約 7,400 人が来場しました。一般公開期間後も 1 ヶ月間は地域に開放しています。</p> <p>近隣大学や市民団体と連携しながらバラを通じて地域の美化、環境づくりと共にコミュニティの活性化に取り組む活動が評価されました。</p>
	<p>パナソニック すもと 洲本園芸部 (兵庫県洲本市) 企業部門</p>	<p>工場内や公道に接する外周の緑地に四季折々の草花を咲かせることにより、従業員の心を和ませ、働きがいのある職場づくりと地域との連携を図ることを目的に活動しています。花壇やコンテナには、社員食堂から出る生ごみを堆肥化し、淡路瓦の廃材も利用するなど、リサイクルと環境に配慮した取り組みがされています。球根や宿根草を活用し、自家生産苗を地域住民との花苗交換をして種類を増やすことで、多種類の花が四季を通じて咲くように心がけています。</p> <p>工場近隣の活動拠点となる多目的ホールでは、地域のオープンガーデン開催時に参加者の交流地点となっていることやデイサービスセンターに入所している方の利用も多く見られる地域の憩いの場になっています。花苗をプレゼントするなど花や緑を通じて、潤いのある環境づくりを目指していることが評価されました。</p>